

木津川・桂川・宇治川圏域河川整備計画検討委員会 第18回資料

<堂の川(木幡池)>

(代替案と事業投資効果)

平成29年1月31日

京都府

1.代替案の可能性（堂の川）

案	案-1 「樋門増設+池掘削」案	案-2 「ポンプ増設+池掘削」案	案-3 「樋門増設+ポンプ増設+池掘削」案
	<ul style="list-style-type: none"> ・樋門(約50m³/s)増設して自然排水量を増加 ・池掘削(増設樋門前面等)により増設する樋門への導水路及び池容量を確保 ・既設樋門、既設ポンプは存置 	<ul style="list-style-type: none"> ・ポンプ(22 m³/s)増設してポンプ排水量を増加 ・池掘削(増設ポンプ前面等)により増設するポンプへの導水路及び池容量を確保 ・既設樋門、既設ポンプは存置 	<ul style="list-style-type: none"> ・樋門(約25m³/s)増設して自然排水量を増加 ・ポンプ(9m³/s)増設してポンプ排水量を増加 ・池掘削(増設樋門前面等)により増設する樋門への導水路及び池容量を確保 ・既設樋門、既設ポンプは存置
治水対策の概要			
	<p>・木幡池(堂の川下流端)のH.W.L.をO.P.+14.53 mとし、天端高を余裕高0.5m分を加えたO.P.+15.03 mとして池の周囲に築堤をする。</p>		
利点と問題点	<ul style="list-style-type: none"> ・自然排水量が大幅に増加 ・排水能力(既存施設+増設施設)が一番大きい ・山科川の水位上昇により木幡池への逆流が生じる場合樋門を閉鎖する必要がある ・樋門の運転操作等のため維持管理費が小 ・工期が短い。 ・景観・環境はおおむね現状が維持される 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然排水量が小さいまま ・排水能力(既存施設+増設施設)が一番小さい ・山科川の水位上昇による逆流を防止するため樋門を閉めた後、山科川の水位がH.W.L.に達するまではポンプ排水が可能 ・ポンプ(28m³/s)の運転操作等の維持管理費用が大 ・工期が長い ・景観・環境はおおむね現状が維持される 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然排水量が少し増加 ・排水能力(既存施設+増設施設)が中程度 ・山科川の水位上昇による逆流を防止するため樋門を閉めた後、山科川の水位がH.W.L.に達するまではポンプ排水が可能 ・ポンプ(15m³/s)の運転操作費用の維持管理費が中 ・工期が他案に比べて中程度 ・景観・環境はおおむね現状が維持される
事業費	約 7 億円	約 48 億円	約 25 億円
判定	○	×	△

※いずれの案も、周囲堤築堤(約3億円)を含めた全事業費である。

2.事業の投資効果について

河川名	整備内容		費用対効果		
	整備目標	メニュー	B 総便益 (億円)	C 総費用 (億円)	B/C 費用対効果
堂の川 (木幡池)	概ね30年に1回の洪水に対し、 浸水被害を解消	池掘削 池周囲堤建設 樋門増設	14.98	4.60	3.26

※治水経済調査マニュアルに基づく現在価値化した総便益Bと総費用Cから算出している。